

《学習指導過程、指導方法の工夫》

目指すところ・・・「自分との関わりで考えさせるために」
 そのためには・・・「自ら気づき、主体的に学ばせること」
 「多面的・多角的に考えさせること」

自分との関わりで考える

指導過程	指導方法の工夫	留意点
気づく	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値を自分との関わりで考えさせるために、体験等を思い起こさせたり、アンケート結果を提示したりする。 ○自ら主体的に学ばせるために「学習問題」や「テーマ」を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導関連図を活用し、ねらいとする道徳的価値に関連した体験活動を想起させる。 ○必要に応じて、各指導過程で「テーマ」に目を向けさせる。
深める 見つめる	<p>○教材の提示 視覚的教材や音声の活用、具体物の提示やパネル等の活用により教材提示の仕方を工夫する。</p> <p>○発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値理解を図るための発問 ・人間理解を図るための発問 ・他者理解を図るための発問 ・自己理解を図るための発問 <p>○表現活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作化、役割演技 ・ハートメーターの活用 ・ワークシートや連想マップの活用 <p>○話合いの工夫 ペア、小グループ、学級全体</p> <p>○板書の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値に関わる考え方、感じ方の多様さを理解させる板書 ・道徳的価値に関わる考え方、感じ方の違いを理解させる板書 ・自分との関わりで道徳的価値をとらえることに資する板書 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の内容をとらえやすくしたり、人物に共感したりしやすくすることで、ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考えられるようにする。 ○ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために、児童の実態と教材の特質を押さえた発問を行う。 ○動作化や演技を通して、教材の世界に身を置いて考えたり、登場人物に共感したりできるようにする。友達と自分との考え方、感じ方の差異を視覚的に捉えやすくするために、ハートメーターを活用する。ワークシートの形式を発達段階に応じて工夫したり、分かりやすく具体的な視点を示したりすることで、児童が何を考えればよいかが明確になるようにする。 ○話合いにより、児童がねらいとする道徳的価値について考えたことや感じたことを発表し合い、友達の多様な考え方や感じ方に触れることで、自分自身の考えや思いを深められるようにする。 ○児童が道徳的価値の理解を深めるための手がかりとなるように、類型化したり、対比したりしながら、分かりやすくまとめていく。
つなぐ	<p>○教師の説話、プレゼン、写真や映像、歌、具体物などの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいとする道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、温めたりして今後の発展につながるようにする。